

前町長 藤井辰夫氏 に 名誉町民の称号授与



六月二十二日に招集された第二回和寒町議会定例会において、今年一月に勇退されました藤井辰夫前町長が和寒町名誉町民に決定されました。

五月に町長の諮問機関である名誉町民審議会（南雲啓一会長）が開催され、町長として四期十六年にわたる功績は、郷土の発展に深く寄与し、名誉町民として顕彰するにふさわしいとして、全会一致で藤井辰夫氏を推挙することの答申がなされ、六月定例議会で議決されました。

藤井前町長は、旧和寒町農業協同組合長の職を十四年余り勤められ、平成二年の町長選に初当選以来、四期十六年の長きにわたり農協組合長の経営手腕や指導力を発揮しながら町の振興発展のために力を注がれました。

在任中は、農業経営の拠点施設である農業活性化センターや南宗谷線地区広域米穀類乾燥調製貯蔵施設の建設、土地改良基盤整備を積極的に推進するなど、農業の振興に尽力さ



れました。

また、地域医療福祉においては、健康なまちづくりの施策として保健福祉センターの整備に取り組み、在宅での介護者や要介護者を支援する在宅介護支援センターや介護保険事業での居宅介護支援事業所の設置、高齢者共同福祉住宅の建設、地域医療の充実のために町立病院の施設整備に努められました。

さらに、教育・文化・スポーツの分野では、町立図書館や総合運動公園構想に基づいた施設づくりなど教育環境の充実を図られ、塩狩峠記念館（三浦綾子旧宅）、生ごみ処理施設、一般廃棄物処分場の整備と文化行政の推進や生活環境の整備促進に力を注がれました。

在任中の後年には、市町村合併協議や合併破綻に伴う行政改革にも精力的に行動され、住民の深い信望と強いリーダーシップを背景に和寒町の将来を左右する難局を乗り越えられました。

本町の名誉町民は、故南雲源一郎氏、故鷲見松右衛門氏、故芳賀敏夫氏、故松本芳明氏に続く五人目となりました。

農業・食べ物・和寒に 期待と不安の農業体験

今年も「都市女性農村生活体験」に三名の実習生が来町しました。実習生のみなさんと和寒町の印象などを簡単にインタビューしちゃいました。



大きな

少しの

和寒町の地名を聞いた印象は？

やっぱり「寒そう!!」との答えがかえってぎました。

和寒町に来ようと決めた理由は？

「町で企画していることなので信用があった。」ことが多くありました。

農業への魅力は？

「旬の新鮮なものを食べることがです。」とやっぱり食への魅力ですね。

この他、農業以外にも北海道を満喫したいとの答えがたくさんありました。



植多 雅子です。

大阪府出身で趣味は温泉めぐりです。農業経験はありませんが、5ヶ月間の農村生活を満喫したいです。



武石 留美です。

千葉県出身で趣味は音楽鑑賞、特技は書道です。今後の人生に生かせるよう農業を通していろいろなことを学びたいです。



魚住 真子です。

兵庫県出身で趣味はテニス・ドライブ・スノーボーです。和寒町の大地に触れ、心も体もたくましく成長したいです。